

内陸エリア

白石市 角田市 登米市 栗原市 大崎市
 蔵王町 七ヶ宿町 大河原町 村田町 柴田町
 川崎町 丸森町 大和町 大郷町 富谷町
 大衡村 色麻町 加美町 涌谷町 美里町



岩手・宮城内陸地震と東日本大震災。2度の大地震を受け、ジオパーク構想の推進に取り組む（栗原市）

県内陸部の20市町村では、津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者の人的被害のほか、全半壊の住家が約10,000棟に及ぶ大きな被害を受けました。

公共施設の復旧や、栗原市・美里町で災害公営住宅が完成するなど、ほとんどの市町村で、震災からの復旧への見通しが立ち、東日本大震災の経験と教訓を踏まえながらも、地域の実情に合わせた復興への取り組みが進んでいます。また、各市町村では、次の災害への備えとして、震災でご支援いただいた自治体などとの災害協定の締結や情報伝達手段の整備などにも取り組んでいます。

一方で、放射線量の測定や風評被害の払しょくなど、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故への対応に追われる市町村もあり、今後の課題となっています。

内陸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	29人	10,472人
行方不明者	7人	1,283人
全壊	1,346棟	82,911棟
半壊	8,499棟	155,086棟

〔平成26年1月31日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成26年1月
プレハブ住宅	282人	104人
民間賃貸借上住宅	5,148人	4,139人
計	5,430人	4,243人

〔平成26年1月31日現在〕

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月
計画戸数	336戸
着手戸数	336戸
完了戸数	55戸

〔平成26年2月28日現在〕



「再生可能エネルギー大規模導入プロジェクト」の第1号として運転を開始した白石太陽発電所(白石市)



町内3カ所に完成した災害公営住宅(40戸)(美里町)

2013年4月27日 土曜日

花色のお出掛けシーズン到来!

(大崎市)

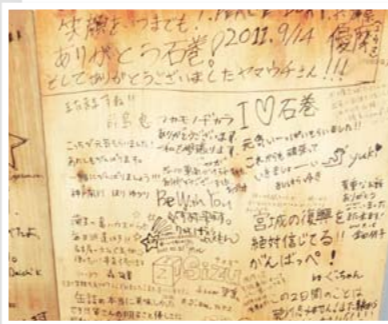


4月27日、大崎市鳴子温泉郷・川渡温泉で第3回「菜の花フェスティバル in おおさき鳴子温泉」が開催されました。このイベントは、東日本大震災で被災した皆さんに元気を出してもらおうと、平成23年春にスタートしたものです。

2013年11月11日 月曜日

高品質の地場産缶詰で地域活性を目指す

(美里町)



「津波で流されてしまった缶詰が被災された方々の手に渡り『命の缶詰』『希望の缶詰』として命の糧となったことは幸いでした。缶詰の価値をあらためて痛感しました」と木の屋石巻水産の木村長努社長。内陸部の美里町に工場を新築移転して再出発しています。

2014年1月29日 水曜日

太陽熱木材乾燥庫で里山文化を再興

(登米市登米町)



化石燃料を使わずに木材を乾燥させる「太陽熱木材乾燥庫(トスムス)」。登米町森林組合が開発・建設したシステムで、県内の災害公営住宅のために木材の供給が始まろうとしています。

2014年2月5日 水曜日

復興支援の専門家が一堂に

(富谷町)



東北自治研修センターで「熱い」報告会が開かれました。参加したのは被災3県で活動している「復興支援員」やNPOなど150人余り。震災から3年を迎えようとする今、それぞれの課題を発表し、共有し合い、解決への道を模索しました。

2014年2月14日 金曜日

復興と再生のジオパークを目指して (栗原市)



「山が動いた」「森が消えた」。平成20年の「岩手・宮城内陸地震」で、栗駒山の山麓が崩壊するほどの被害を受けた栗原市。市では今、その地形や景観を既存の観光資源と結びつけながら、学術研究や防災教育、地域活性化など多目的な活用を目指す「ジオパーク構想」を打ち出し、その認定に向けた事業を推進しています。

2013年11月15日 金曜日

被災蔵を新造、新機軸の酒造りに挑む

(栗原市金成)



「宮城のお酒で宮城を元気に!!」金成有壁の地で170年の歴史を育んできた酒造店の佐藤曜平・善之さん兄弟。5年前の岩手・宮城内陸地震と東日本大震災で受けた大打撃を乗り越えて、蔵を新造し、新たな酒造りにチャレンジです。

2014年1月29日 水曜日

復興へ向かって。女性の力で地元を元気に

(登米市迫町)



登米市が拠点のNPO法人Women's Eye(ウィメンズアイ)。介護や子育てなどに追われる女性、高齢者、障がい者など孤立しがちな人々を対象に、グループ活動やワークショップなどを通じた「横のつながり」づくりに取り組んでいます。

2013年9月25日 水曜日

創業140年の蔵を離れて、新たなる挑戦

(川崎町)



料理の味わいを邪魔しない「究極の食中酒」を造ってきた酒造店の杉原健太郎専務。岩手・宮城内陸地震と東日本大震災のダブルパンチで壊滅的な被害を受けましたが、奥羽山脈の山懐に蔵を移して、心機一転、酒造りを再開しました。